

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600178		
法人名	株式会社 実喜		
事業所名	つまごい笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡嬬恋村大字今井字下石津1287－68		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が本人のありのままの姿で過ごせるように職員一同が一人一人を理解するよう努力しています。又施設周辺は自然が多くありますので雪のないときは天候を見ながら散歩に出かけ気分転換や外のおいしい空気を吸えるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居後も理念にある「自分らしさ」を失わず生活続ける為に、利用者の意思を尊重した自己選択、自己決定ができる場面作りをしている。利用者の入浴日を決めず、その日の状態や利用者の気持ちを優先して入浴を実施し、飲み物も提示された種類の中から、利用者が選んだ物を提供している。また、運営者が地域密着型運営委員会の一員となり行政の活動に関わり、運営推進会議には社会福祉協議会、有識者等が出席する等、構成メンバーが充実している。時機に合った情報や各方面から意見を聴くことは利用者の為に有効であり、グループホームが目指す地域に密着した運営に繋がる。地域生活者としての実績と経験が活かされているといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【その人らしい生活ができる介護】を理念としている。入所者への対応が統一してできるように、申し送り・カンファレンスなどを行うようにしている。	理念にある「その人らしさ」を尊重している。利用者のこれまでの生活や今したいことを職員間で理解、共有し、現状を維持する支援をし、介護とは何かを問いながら、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雪が降る前は、近隣を散歩したりしてであった地域の方と話したり、天皇皇后さまの見送りに沿道に出たり、社協のフェスタに行くなど心かけている。	地域の一員であることを心掛け、回覧板を回しに出掛けたり、散歩の時に挨拶を交わしている。フラダンス、舞踊のボランティアも受け入れ、社協主催のフェスタにも全員で参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	設立年度あたり、行政（婦恋村）が行う地域密着型運営委員会の役員に任命されその会の委員会において同席委員の皆様により事業内容・実情を発言し理解を得られるよう心がけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の会議にて皆様に、意見をいただきサービスの向上に努めています。	家族、行政の担当者、地域包括支援センター、社協、有識者の出席のもと、隔月で開催している。入居者現況報告、行事報告、テーマに沿った話し合いを通して、意見をサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に、施設利用状況などを相談し、協力関係を築いていくよう心がけようと考えています。	地域密着型運営委員会の役員に就く等、行政の活動に参加している。認定調査に立会っているが、今後は事故報告、介護認定の更新申請代行を通して行政と連携を図っていくことを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの配置状況によって、出入り口を手動にするよう心かけています。	玄関は施錠しているが、職員の配置状況によっては開けておくこともある。利用者から外出の希望があった場合は、職員が付き添って対応している。今後身体拘束廃止委員会の開催を予定している。	玄関の施錠は身体拘束にあたるが、利用者の要望に対して付き添って外に行く取り組みをこれからも継続し、また開けられる状況を作る工夫をしてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で、虐待について理解し虐待防止に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合、関連施設・村の担当者 と相談し、協力して支援していきたいと考えて います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者・その家族に理解しや すいように説明し、契約内容を十分理解して 頂いてから契約しています。解約の際も同 様に、話し合い、合意の上解約するようにし ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	苦情申し立ての説明をするようにしていま す。また、入居者・家族様にはどのような要 望があるのか、会話する中でくみ取れるよう に心がけています。	日常会話中の言葉から利用者の意見や要 望を把握している。家族から生活上の相談が あった場合は、一緒に考え要望に沿った対応 ができるよう職員間で共有し実践に反映させ ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りなどで情報を交換し、相談を しそれを共有できるようにしています。また スタッフから業務改善の提案があれば、話し 合いより良い運営ができるようにしていま す。	職員は申し送りや毎月のスタッフ会議で業務 やケアについて要望や提案をし、職員の意見 交換の場となっている。運営者、管理者と話 や相談が気軽にできる雰囲気があり、働き易 さに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、意見を聞きなが ら向上心をもって働ける職場環境になるよう 努めています。又状況に応じて実績を評価 したうえで昇給などは考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部の研修や、交流会には参加してもら うように促し、技術・知識・質の向上を図り実 践につながるようにと考えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	村や、近隣の病院のソーシャルワーカーか ら、情報交換会・交流会の案内を貰い、参加 し交流することで質の向上になるよう努めて いきます。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者がいる場合は、事前にスタッフで情報を確認しています。入所後、空間に慣れるまで言動・表情を観察し安心して生活できるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者・家族に会い、入所前の生活状況を伺い、何に困っており、何を必要としているかを確認し、それに合ったサービスが提供できるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を伺い、それに合ったサービスが提供できるようにしています。利用開始後も希望に沿って利用できるように、声をかけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過ごす毎日が、マンネリ化しないよう、また苦痛にならないよう嗜好に合った暮らしやすい環境を整え、その人に合った接し方をするようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、生活状況の変更や食事摂取の変更などいつでも申し出てもらえるよう声をかけています。また、同じ心境に立てるよう家族の方にも寄り添い、話かけやすい環境を創るよう心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様となじみの人や、場所との関係性を理解し支援に努めています。	利用者にとって馴染みがあったぬり絵や切り絵等の趣味を提供したり、喫煙の習慣や信仰が継続できるよう支援している。また、友人や家族の訪問を受け、在宅時の繋がりを図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルが起きないよう、入居者同士の性格の不一致や、言動に日々注意しています。また、入居者同士で助け合い、相談しあえる関係が築けるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際には、終了後も相談しやすいような声掛けをするように努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がどのような生活を望んでいるかを入居前に確認し、希望に沿って生活ができるようにしています。	在宅時、利用者がどのような生活をし、昔は何をしてきたのかを具体的に聞き取り、フェイスシートを作成することで利用者の意向を把握し、その人らしい生活を支援することに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や面会時に聞いた情報を共有し、その方らしい生活ができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や、受診した時の情報などを記録し、情報を共有して現状を把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人・家族・必要関係者と話し合い、意見や要望を聞いたうえで本人にとってよりよい生活が送れるように介護計画を作成しています。	利用者のこれまでの生活や今したいことを重視し、アセスメントを行った後、利用者や家族の要望に沿った介護計画を作成している。3ヶ月ごとに計画を見直し、職員が毎月モニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や、ADL、受診時の様子など状況把握を職員間で徹底して行っており、状態の変化などがあれば、話し合い介護計画の変更などを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々過ごす中で生じる、様々なニーズに沿えるような柔軟なサービス提供ができるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解したうえで、活用し入居者が穏やかに安心して生活できるよう心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明の時に、かかりつけ医を確認しています。協力病院の受診でよければ職員対応で受診を行うことを説明し、入居者・家族の希望をきき適切な医療を受けられるように努めています。	かかりつけ医や専門医への受診は家族が付き添っている。協力医の往診はなく、必要に応じて職員が対応している。家族による受診が利用者の状態を理解し、関わる機会となるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診した時は、状態把握ノートの記入を徹底し看護職員に伝達し施設内でも的確な看護を提供できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、入院先の地域連携室と連絡を取り、入居中の情報・入院先での情報などを交換し把握しあい入居者様が早期に退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期には今後起こりうる状態をご本人・家族・協力医・地域関係者と話し合い適切な支援ができるようにと考えてます。	利用者や家族が医療的処置を望まず、看取りを希望する場合は実施する方針である。利用者家族には看取りについて段階的に説明をし、医療機関からも理解を得て、連携を図る取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成しており、スタッフで共有しています。救急車の要請手順を作成し、だれでも対応できるように掲示してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接しているホームで協力し合い避難できるように訓練を行います。(つまごい笑みの里では、未実施)	消防署立会いの避難訓練及び自主避難訓練の実施、ハザードマップによる地域特有の災害を考慮した行政による訓練への参加を検討している。食料品、水、排泄用品等の備蓄も予定している。	利用者を守る為には、消防署立会いの下、専門的な指導を受け避難訓練を実施し、災害時には地域の拠点となることを念頭に備蓄品の用意も検討してほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人間性を尊重し、声掛け・対応をしています。また個々に過ごす時間を設け、話を聞いてりして安心して生活できるようにしています。	異性介助になる時は承諾を得、排泄時は周囲に配慮した声掛けをする等、利用者一人ひとりの尊厳を守るケアに取り組んでいる。また、利用者の思いに寄り添ったケアで利用者を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が慌てないで余裕をもって行動するように心がけることで、入居者様が思っている事・感じていることなどを言いやすい環境・人間関係を築けるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に希望を聞き、希望に沿った生活ができるよう毎日取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に、美容師に訪問してもらい散髪ができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、毎食の献立を記入し掲示しています。刻み食の方・眼が不自由な方には、献立の説明をするよう心がけています。また、入居者様から片づけをしたいと要望がある際は職員と一緒にってもらっています。	食べたい物を食べたい時に食べられる満足感を得られる食事の支援をしている。特に行事の際は利用者が希望する食事を提供し、おやつレクや外食ドライブ、家族との外食を実施している。	利用者と職員と一緒にテーブルにつき、同じ物を食べることで、食事に対する話題や共通認識を持つ機会となるよう努力してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は毎食観察し、水分摂取状況は夏場や、入居者様の健康状態により観察するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは個別に声掛けをし、行っています。入居者様のADLに合わせ、見守りや軽介助など個々に対応し口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の、排泄動作の状態を把握し、その方に合った支援ができるようにしています。また、状態の変化などがあった場合は、その都度検討するよう心がけています。	排泄チェック表はあるが、ほとんどの利用者が自立しているのでトイレ誘導の声掛けはせず、利用者の意思でトイレに行く様子を見守り、失禁が見られても、利用者の意思を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の改善・予防を心掛け、定期的な運動・水分摂取などに努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表はなく、希望時、入居者様の体調をみて入浴実施しています。	週3回の入浴を目安にしているが、利用者の入浴予定日を決めず、その日の状態を見て声掛けをしている。また希望に沿っていつでも入浴できるよう柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して寝られるよう、本人もちの寝具の持ち込みも可能としています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一同で内服薬情報を共有し、変更があった場合は申し送りや・状態把握ノートに記入することで全員が把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や面会時に聞いた情報を基に、その方に合った時間を過ごしてもらえるように援助するよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があれば、希望に沿って散歩に付き添っています。また、かかりつけ医以外の受診時に外出する際は家族の方と連絡を取り、外食や自宅によって来るなど希望に沿って楽しく外出できるように支援しています。	日常的には近隣を散歩したり、回覧板やゴミ捨ての為に外出している。職員が付き添う受診後に家族の協力を得て買い物や外食に行ったり、自宅に寄って食事をする等の支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買い物に行く際、買い物ドライブの際は可能な方にはスタッフが見守りながら会計を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が、電話を家族にかけたいと希望がある際には、希望に沿って控えている電話番号にかけて対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窓から自然な光が入るように、また天気が悪い日にも青空を見られるように天井の壁紙を工夫してあります。又入居者様と作成した四季折々の作品をホールや玄関に飾ってあります。	共用空間には利用者の手作り作品や花を飾り、四季が感じられる工夫をしている。廊下に暖房機を設置し、室内の温度を一定に保ち寒暖差が生じないよう生活し易い環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるホールでは、固定の席を決めるということはず、その日その時の入居者様の気分で席を決め、気持ちよく過ごせるようにして頂いてます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使用しなれた寝具・家具・食器など持ち込み可能なことは説明しており、入居者様が居室でも過ごしやすいように心がけています。	備え付けのベッドや整理タンスの他、テレビ、衣桁等在宅時の馴染みの物、使い慣れた物を持ち込んでいる。手作り作品やカレンダーが飾っており、自分らしい居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の残存機能を理解し共有し、それを踏まえて一人一人に合ったケアを行うようにしています。		